



困難を抱える子どもや若者とその家族を真ん中に、声を聞き、強みを活かして、
包み込むようにチームで支える新しい支援のかたち

ネオソーシャルワーク・アプローチ
ALLOUND SYSTEM
[アロウンド・システム]

OUR VISION

アロウムのビジョン

母親や実親ではない人々が子育てをすることを
ALLOMOTHERING (アロマザリング)、**ALLOCARING** (アロケアリング) といいます。

『**ALLOUND**(アロウムの)』という名前は、**ALLOCARE** (アロケア) と
「まわりをぐるっと囲む」という意味をもつ **AROUND** (アラウンド) からできました。

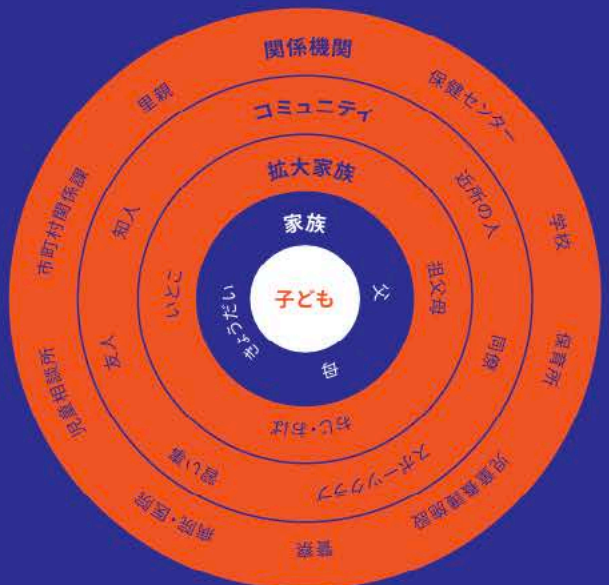
むかしは日本でも、地域や社会みんなで子育てをしていました。
しかしながら近年では、母親の『自己責任』という言葉で突き放され、困難な状況にありながらも、
まわりに助けを求められず、さらに重篤化していくケースがたくさん見られます。
どこにも繋がらず助けもなくSOSも出せない社会、受け止められない社会の問題。
行政機関による発見のみが頼みの綱となるシステムの限界。
誰かと繋がっていれば、救われた命があります。

わたしたちアロウムのでは、児童虐待予防・再発防止をゴールに、社会全体が自分ごととして受け止め、
繋がり包み込み、人類という大きなひとつの家族としてみんなで子どもや若者を育み支えていく
ALLOCARING (アロケアリング) が可能な社会を目指します。

日本はセカンドチャンスが与えられにくい社会だと思います。
子どもは育つ環境を選べません。そこには、子どもや若者が夢をみるできない希望格差があります。
一度つまづいてしまったらそのままずっと転がり落ちていくのではなく、
セカンドチャンスが何度でも掴むことができ、
夢や希望を持った人生を歩んでいけるような世界を夢みて、進んでいきます。



子どもたちはいろいろな人との関係の中で育ちます。
家族や支援機関だけでなく、有機的につながった
インフォーマルな関係者を増やすことが大切です。



SITUATION ANALYSIS

現状と課題

虐待再発を防止し、安全が続く家族になるには、家族自身で家族の安全をイメージできることが重要です。
どんな家族になりたいかを聞き、それを元に家族が実行していくことが子どもの安全につながります。
そして支援者側には、そのニーズやビジョンに寄り添うような包括的なサポートが求められます。

保護者にプログラムを受講させること ≠ 子どもの安全
支援側が家族のために決めたこと(パターナリズム) ≠ 家族の望むこと・家族のニーズ

支援アプローチの変化



鈴木浩之(2020)「児童相談所における子どもと家族への支援の現状と課題—子ども虐待対応など、相談を望まない人たちとの相談をいかにしていくのか」

当事者は今まで、「支援」という車の助手席に座っていました。
当事者自らが運転席に座って、自らの人生の舵をとっていくことが重要です。



ALLOUND SYSTEM

ネオソーシャルワーク・アプローチ：アロウンド・システム

アロウンド・システムは、子どもや若者とその家族のニーズから、オーダーメイドで作られる支援プランで、地域で包括的に、チーム体制でサポートする支援アプローチです。
困難を抱える子どもや若者とその家族を真ん中に、声を聞き、強みを活かして、包み込むようにチームで支えています。

アロウンド・システムの軸となっているのは、1980年代よりアメリカ全土で取り入れられている **ラップアラウンド WRAPAROUND** (次ページ参照) という支援アプローチ。

このラップアラウンドをベースに、児童虐待やネグレクトのトラウマ治療アプローチである **TLSW: THERAPEUTIC LIFE STORY WORK** 治療的ライフストーリーワーク(裏表紙参照) や、トラウマインフォームドケア、ダイバージョン、プロセスワークなどさまざまなメソッドを取り入れ、日本の現状や課題、文化や特質に合わせて構築された支援アプローチがアロウンド・システムです。

アロウンド・システムのチームには、

児童相談所や市町村関係課のような関係機関からのフォーマルな関係者だけでなく、子どもと若者が参加してほしいと思う友人や親戚などのインフォーマルな関係の人々もチームに参加します。チーム会議では、全体を把握し、家族のニーズを引き出し、サービスと支援する人々を家族に結びつけるチーム会議の進行役、**ケアコーディネーター**を中心に、子ども、若者、家族の強みにフォーカスし、当事者のニーズに対する戦略や、望む結果について話し合いながら実行していきます。そして、特徴的なのが、このチームに参加する**ピアサポーター**という存在です。ピアサポーター・トレーニングを受けたかつての当事者が、その辛かった過去を今度は他者を支える力強いスキルとして磨き、家族を支える**ファミリーサポーター**、子どもと若者を支える**ユースサポーター**として、寄り添い、代弁し、一番近いところで支えます。

OUR APPROACH

アロウンド・システムの支援アプローチ



アロウンド・システムは以下のような支援のために、
有効なアプローチです。

社会的養護からの家族再統合支援

里親養育支援

特定妊婦支援

ヤングケアラー支援

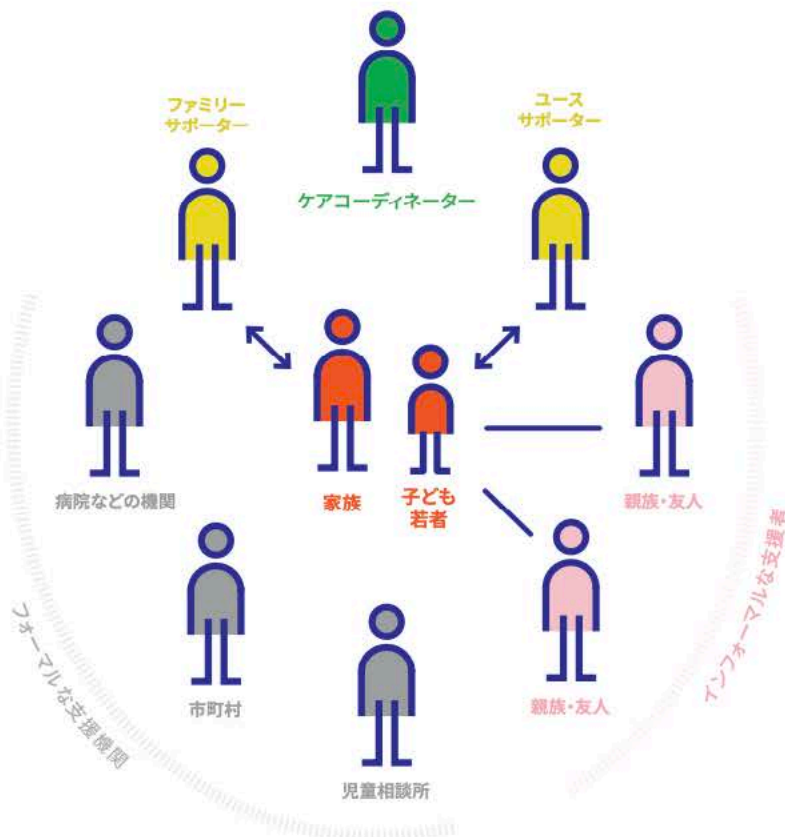
社会的養護からの自立支援

これまでの支援との違い

- 専門職が中心 → 子ども・若者と家族が中心
- 支援者が指示をする → 子ども・若者と家族のニーズから
- できていないことにフォーカス → 強みにフォーカス
- 固定されたサービスが中心 → チームが中心
- 情報提供と紹介 → 家族の個性性に注目
- 既存のサービスの中で → やれることは何でも
- 固定されたサービス → 柔軟に
- サービス利用の制約 → 無条件に
- 自分のことはオープンにしない → 自分の経験を共有して
- 専門職につながる → 自然な関係の中でのサポート

OUR TEAM

アロウンド・システムのチーム編成



WHAT IS WRAPAROUND?

ラップアラウンドとは？

1980年代、米国ノースカロライナ州のソーシャルワーカー、Dr. Lenore B. Beharが
施設や病院での子どものケアにかかる経費があれば、

地域において、子どもや家族にオーダーメイドで支援が提供できることを提唱。

『まわりをぐるっと囲み、包み込む』という意味の、ラップアラウンド WRAPAROUNDと名付けました。

家族・地域の居場所を喪失するという、長く施設や病院で過ごした子どもたちがのちに困難を抱える現実や、

そこにかかる費用を地域での支援に回すことで経費の削減にもなることから、全米に広がっていきました。

ラップアラウンドは、困難を抱える子どもとその家族を、施設という壁ではなく、

サービスで包み込むためのプロセスであり、児童福祉、少年司法、精神保健、教育などの分野において

行動面・情緒面・精神面に深刻で複雑な課題のある子どもや若者を地域でサポートするために活用されています。

全米のほとんどの州、その他の国で行われている、集中的（1～1.5年間）な支援のアプローチで、

精神保健、障害児、非行、家族再統合、家族維持、里親支援など、

ラップアラウンドの10原則にもとづいて、さまざまな対象ややり方で展開されています。

アロウンド・システムも、この10原則を元に作られています。

ラップアラウンドの10原則

① Family Voice and Choice: 子ども/若者/家族の声と選択を尊重し、ニーズを引き出す

② Team Based: チームに基づく

③ Natural Supports: 子ども/若者/家族によって認められたメンバーで構成されたチーム編成

④ Collaboration: チームが協力して計画を作成し、実行し、モニタリングを行う

⑤ Community based: コミュニティを重視する

⑥ Culturally Competent: 異文化を理解して寄り添う

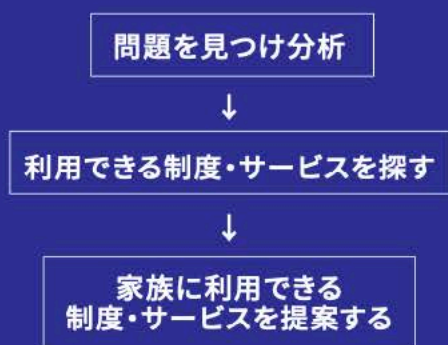
⑦ Individualized: 個別性を大切にす

⑧ Strength Based: 子ども/若者/家族の強みにフォーカス

⑨ Unconditional: 子ども/若者/家族を非難したり拒絶したりせず、粘り強く

⑩ Outcome based: 支援計画の結果を重視し、調整を繰り返す

従来の支援とアプローチ



カテゴリー化されたケア。
それぞれが単独で働いているので
別々の方向に支援を提供していて、
同じ方向を向いていない。
支援にすき間ができる。



縦割りから集合へ。助ける側・助けられる側という関係からパートナーシップへ。
強みを活かして、当事者の声からつくりあげられるチーム伴走型の新しい支援のかたち。

ラップアラウンド導入後

子ども・若者や家族のニーズから、
オーダーメイドで支援計画をつくる。
チームで一つのプランをつくり、
ひとつひとつの家族を
実践でよくしようとするアプローチ。

FORから
WITHへ!



THERAPEUTIC LIFE STORY WORK

TLSW: 治療的ライフストーリーワーク

TLSW:THERAPEUTIC LIFE STORY WORK (治療的ライフストーリーワーク)は、児童虐待やネグレクトのトラウマを経験し、過去の痛みに苦しんでいる子どもや若者が、自分を振り返り、自分への思いやりを育み、前に進むことをサポートする治療的アプローチです。

自分の歴史が現在にどのような影響を及ぼしているのかを深く理解し、自覚することで、大きな変化を起こすためにどう行動すべきかを考えることができます。

TLSWでは、「誰が、何を、どこで、いつ、なぜ、どのように」ということを知るということだけでなく、どんなに過去が辛くても、振り返り、取り組み、乗り越えなければ、つらい過去が現在と未来を台無しにしてしまうことがある、と考えます。

しかし、子どもたちがトラウマや喪失の歴史について考え、その起源と影響を理解するのを手助けすることができれば、それは「過去の亡霊」を特定し、理解することができ、子どもたちがもはやそれに悩まされることがなくなります。

辛い体験をした子どもや若者にはトラウマ治療が必須です。しかしながら、日本ではなかなか浸透しておらず、過去からの傷が癒えないまま、生きづらさを抱えている子どもや若者がたくさんいます。

また、子どもや若者だけでなく、支援者においても、自己のトラウマへの対峙は対人支援をしていく上で重要だと考えます。

アロウンド・システムでは、TLSWのアプローチを取り入れながら、トラウマのケアにも積極的に取り組んでいきます。

OUR PARTNER

パートナー

ラップアラウンドのトレーニング及び日本におけるローカリゼーションに関するコンサルテーションは、日本財団による助成のもと、米国オレゴン州のラップアラウンド・トレーニング機関である

En Route Coaching & Training Services, LLC

www.enroutecoaching.com より受けています。

プログラムに関するお問い合わせ: info@allound.org

www.allound.org

